

# 9月全学連大会へ!

全学連(斎藤郁真委員長)書記局通信

2014年8月22日  
No.215

Tel 03-3651-4861  
mail\_cn001@zengakuren.jp  
http://www.zengakuren.jp/

## 8・17集会での動労千葉・田中康宏委員長のスピーチ

### 「7・1」と対決し、労働組合の復権へ

「7・1」で私たちは歴史の分岐点に立ちました。日本の労働組合は、かつて産業報国会になって戦争に協力しました。私たちは二度とこの道は歩みません。戦争をするために労働組合の力を削ぎ、労働組合を破壊しようとするなら、私たちはもう一度労働者の団結を取り戻して、戦争までして生き延びようとするこの国の政府に対して立ち向かうと固く誓いましょう。



### 韓国・民主労総から学んだ闘いの教訓

民主労総のように闘う労働組合をこの日本に甦らせることをもって集团的自衛権の行使に立ち向かう。この決意です。

先ほど発言されたチョヨンナンさんは、南北の自主的統一をめざす統一委員会の闘いをすると同時に韓国の学校非正規職労働者を一から組織された方です。その闘いはこの4年間で3万人の労働組合になったそうです。僕らも今からこの闘いをやらなければなりません。

なぜなら、団結を求めて深い怒りの声をあげ始めている労働者とその家族がこの社会には満ちているからです。しかし、まだ僕らはこう闘えばいいんだということを力あるものとして見せることができていません。だけど闘いはこれからです。その道を絶対に私たちは歩む。そのことをあらためて決意しましょう。

### 「闘いなくして安全なし」は 全世界の労働者の共通のスローガン

私たちは鉄道の労働組合として、「闘いなくして安全なし」を掲げて闘ってきました。このスローガンを書いたTシャツを民主労総との交流の時に持って行くんですが、どこかでこのTシャツを受け取った韓国の鉄道労働者が、このスローガンを韓国の鉄道労組のTシャツにして、民主労総の鉄道労組の本部のスローガンになっています。

イギリスのRMTという鉄道労組の仲間は、訪日の報告の機関紙の表題を「NO FIGHT NO SAFETY」と書きました。このスローガンが、日本の労働者、鉄道労働者と韓国の鉄道労働者と、イギリスを、ひとつにつなげたんです。

だから、戦争を阻むために、民主労総の仲間をはじめ全世界の労働者と固く国際連帯をしていくことは絶対にできます。

### 権利を守る闘いと戦争を止める闘いは一つ

私たちが今、新しい挑戦を始めています。労働運動を解体するための国鉄分割・民営化は民営化だけでは終わらず、あらゆる業務を全部外注化に突き落とし、雇用も安全も全部破壊し、韓国ではそれがあのセウォル号の事件を、日本では尼崎事故を引き起こした。僕らは今の支配構造全体を打ち砕かなきゃいけない。闘う労働運動を自分たちの手で取り戻していくということは、大きな戦争を押しとどめていく力につながると確信しています。

9月11日、国労の郡山の仲間たちが国労本部の屈服について、外注化粉碎の闘いに立ち上がります。ここに結集してほしい。そして11月2日、韓国・民主労総の仲間を招いて、日比谷野外音楽堂で万余の集会を開きたい。すべての怒りの声をぜひここに結集させてください。

## 【武田雄飛丸君「暴行」でっち上げ裁判・第2回公判】

9月10日(水) 13時半～ 東京地裁429号法廷にて

※傍聴券配布のため、13時までに裁判所入口脇に集合してください。

## 【全学連第75回定期全国大会】

◆安倍政権たおそう! ◆全国大学に自治会を!

◆法大文化連盟委員長・武田君を取り戻そう!

9月3日(水)～4日(木) 東京・浜町区民館にて

参加費用=1000円(会場代、資料代など) ※宿泊費は除く



# 2014年8月・日比谷宣言

東京・日比谷公会堂に集まった私たちは、集団的自衛権行使容認のための「7月1日閣議決定」の即時撤回と安倍政権打倒にともに立ち上がることを、全国・全世界に呼びかける宣言をここに発します。今夏、被爆69周年の広島・長崎に強くかつ深く刻みこまれた被爆者と日本人民の「二度と戦争をさせない」という不動の信念をひきついで、本宣言を発します。

(1)

「7・1閣議決定」は、憲法9条を破壊しました。「戦争放棄の国」から「戦争をする国」への大転換です。これは、全世界の人民に対する戦争宣言であり、日本人民は生きぬく未来のかかった分岐点に立っています。

「我が国の存立を全うする」と称して、武力の行使＝戦争が、いつでも時の内閣の決定で可能となります。しかも他国のためにする戦争ではありません。安倍首相が国会で明言したように、わが国と密接な関係にあるとみれば、ペルシャ湾ホルムズ海峡はもとより地球の裏側へでも「我が国の自衛の措置」として自衛隊が派兵されるのです。

人々の命と生活が、国家を守ることと一体であるかのような欺瞞は許されないことです。あの第2次世界大戦の末期に、東京大空襲で、沖縄で、広島・長崎で、数十万の命が奪われたのは「国体（国家）護持」のためだったことを、多くの人々は決して忘れていません。のみならず、戦場での死者の過半以上が餓死だったことも歴史に刻みこまれています。国家も軍隊も労働者人民を守ることなど断じてないのです。

(2)

戦争を阻止する道は、国境を越えた全世界の人々の連帯と団結です。2度の世界大戦をはじめとした幾多の戦争の経験を、今度こそ社会を変革する力に変える時です。

世の中の「1%」の資本家と支配者が、資源や市場や勢力圏を奪い合うために「99%」の人民を動員するのが戦争です。お互いが、妻も夫も、子どもも、親も持つ人民どうしが殺し合うことに何の意味があるのでしょうか。尖閣問題が示しているように、ことさらに他国の人々を互いにさげすみ敵対させる、よこしまな意図をもった政治こそが戦争につながります。安倍政権は、アジアで最も好戦的と評される、その戦争政治の当事者でありながら「我が国を取り巻く安全保障環境の悪化」などと、うそぶいています。

各国人民が、「自衛」を常に口実とする「自国の戦争」に反対し、それでも戦争に走る政府は打倒する。労働者人民に国境はのらないことの実践はここにあります。今こそ私たちは、韓国民主労総のパククネ政権打倒の闘いと連帯して、中国・朝鮮、アメリカをはじめ、全世界の人々に戦争に走る自国政府の打倒のために立ちあがることを訴えます。

(3)

安倍政権を倒し、戦争を阻止するもう一つの力は労働運動です。社会を動かしている労働者階級こそが、この戦争と大

失業において日本と世界の人々の全未来を背負っています。

日本が新自由主義へと走る1980年代、「自主憲法制定」を人生の目標にしていた中曽根元首相は「国鉄分割・民営化で労働運動をつぶして改憲をする」と公言し、改憲と戦争が労働運動をめぐる攻防にあることを自認しました。

この国鉄分割・民営化に絶対反対の旗を掲げて4半世紀。動労千葉はますます団結を固めてJRの全面外注化・安全破壊に闘いの炎を燃やし続け、動労水戸は福島への怒りと結んだ被曝労働拒否のストライキを打ち抜き、今や高線量地域への帰還強制と内部被曝無視と対決する地域住民の支柱です。非正規労働者が労働組合を結成して解雇撤回をかちとった東京西部ユニオン鈴木コンクリート工業分会の勝利は、「現代の蟹工船」といわれる過酷な労働現場で苦しむ全国2000万人の非正規青年労働者の胸に怒りの火を点しました。

戦争国家への転換は、「戦後革命」で労働者人民が支配階級に強制した諸権利を破壊することと一体で進みます。社会保障制度の解体、10%の消費増税と法人税の10%引き下げ、民営化・規制緩和による安全の崩壊、残業代ゼロ法案など労働者人民の深い怒りは充満しています。労働運動の再建で、これら全てに反撃し、その根を絶ちましょう。

(4)

2011年3月11日以来、日本の労働者人民の総意は、〈原発再稼働絶対反対、全原発の廃炉〉へと大きく転換しました。そして反原発闘争は、福島・東京・全国においてすでに数十万、数百万規模の国家と非和解の怒りの行動として発展しています。

しかし福島では、現在も大規模・深刻な放射能汚染が日々拡大し、命と生活の危機が進んでいます。「全てはコントロールされており、安全だ。健康被害は現在も将来もおこらない」という安倍首相の大ウソや石原環境相の「金目」発言のうらで進む200万県民の棄民の現実です。明確に核武装を意識した鹿児島川内原発をはじめとした原発の再稼働は絶対に許しません。

沖縄・辺野古新基地建設とオスプレイの佐賀空港配備も、「7・1閣議決定」を現実化するものとして阻止しましょう。

(5)

私たちは、1945年8・15から69年目にあたり、ここに「日比谷宣言」を発し、その実践と持続的発展をめざして「改憲・戦争・原発・貧困許さない大行動」（略称「許すな改憲大行動」）を立ち上げます。安倍政権打倒の大運動に日本のみならず全世界の賛同を訴えます。

怒りの声は社会の隅々に広がり、誰もが根底からの変革を求めています。国際連帯と労働運動の力で、この戦争の危機の時代を乗り越え、労働者人民の団結で人類の新たな歴史を切り開きましょう。

2014年8月17日

「改憲・戦争・原発・首切りの安倍をとみに倒そう」大集会